

南雄三軍団合同視察勉強会 IN 有田・唐津

～2013年10月5日・6日～

今回の南雄三軍団合同視察勉強会は、梅田産業㈱企画・主催、
下記団体にて佐賀県の有田と唐津にて行われた。

参加団体：BB 研究会、中部の会、四国工務店学校、
ソトダン 21、松建会 計 29 名



《10月5日》13:00 福岡空港出発→有田に移動

西松浦郡有田町：人口約 21,000 人、面積 65.8 平方キロメートルの町。古くからやきものの町として有名な有田町は、1616 年に朝鮮人陶工李参平らによって泉山に陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれた。以来、佐賀藩のもとで、磁器生産が本格化し、谷あいには「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めた。一方で、「棚田」という特徴的な景観を持つ稲作地であり、県下有数の畜産地でもある。有田焼の「器」と農業の「食」、両方の魅力を堪能できる有田町。伝統と歴史、豊かな観光資源を生かした町づくりに取り組んでいる。

【柿右衛門窯 見学】

江戸時代初期の 1640 年代（寛永～正保頃）に、日本で初めて磁器の上絵付けに成功した酒井田喜三右衛門（後の初代柿右衛門）の窯。国重要無形文化財に指定されており、故十四代酒井田柿右衛門氏（酒井田正氏）は重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されている。



『柿右衛門窯 HP』より



十四代酒井田柿右衛門のいとこ、酒井田様に説明をしていただきました

【井上萬二窯 見学】

井上萬二は昭和 20 年ごろ十四代酒井田柿右衛門、奥川忠右衛門らに師事、白磁制作の技法を習得した。「現代の名工」労働大臣表彰、日本伝統工芸展で文部大臣賞などを受賞。平成 7 年には重要無形文化財「白磁」保持者に認定される。現在、日本工芸会参与、有田陶芸協会会長。

『佐賀県の陶芸作家』より



【有田 街並み散策】

重要伝統的建造物群保存地区

江戸・明治・大正・昭和の各時代を代表する町屋が連なっており、1991年（平成3年）、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



泉山磁石場



トンバイ堀のある裏通り



【懇親会：龍泉荘】



おいしい川魚料理とお酒をみなさんでいただき、楽しいひとときでした

* 有田→唐津に移動

唐津市：人口約12万8千人（約49,920世帯）、面積487.4平方キロメートルの市。中心市街地は唐津藩の城下町が前身。

唐津神社の秋季例大祭である「唐津くんち」や特別名勝の「虹ノ松原」、「呼子朝市」などがあり、広大な面積に多数の観光資源を有する。

【宿泊：唐津ロイヤルホテル】



『唐津ロイヤルホテル』より



日本三大松原の『虹ノ松原』



《10月6日》8:45 唐津ロイヤルホテル発

【曳山展示場 見学】

毎年11月2日～4日に行われる唐津神社のお祭り「唐津くんち」。

文政2年（西暦1819年）刀町の赤獅子の奉納に始まり、明治9年までの57年間に15台の曳山が次々と奉納された（うち紺屋町の黒獅子は明治中期に損滅）。これらの貴重な町人文化の遺産は、幾多の苦難に耐えて守り継がれ、曳き続けられてきた。



『曳山展示場 HP』より



【旧高取邸 見学】

杵島炭鉱などの炭鉱主として知られる高取伊好（たかとりこれよし 1850～1927）の邸宅。唐津城本丸の西南の海岸沿い、約2300坪といわれる広大な敷地に、大きく2棟の建物が建っている。

平成10年12月に国の重要文化財の指定を受けた、和風を基調としながら洋間を持つ建物。大広間に能舞台を設けるなど独特なつくりになっている。



『唐津市観光協会 HP』より



【研修会：埋門ノ館】

前回の研修報告や各団体の紹介等



『唐津市 HP より』



【旧唐津銀行にてランチ（唐津迎賓館）・見学】

明治 45 年竣工。東京駅という国家プロジェクトに奔走する巨匠辰野金吾から設計を託された愛弟子田中実は、師匠の故郷に対する思いを汲み取り、晩年の辰野金吾の設計スタイルを特徴づける典型的な「辰野式」を採用している。辰野と田中の共作によるモダン建築。

平成 9 年まで佐賀銀行唐津支店として現役の銀行であった。



『旧唐津銀行 HP』より



唐津にて解散（14:00）



**今回参加してくださった各団体のみなさま
本当にありがとうございました**